広島・宮島を舞台にしたアートプロジェクト「MAFIN 2026」、今秋に開催決定！

1200年の歴史を紡ぐ聖地・宮島の大聖院を舞台に、被爆80年を迎える2025年に始動したアートプロジェクト「MAFIN（Miyajima Art Festival in the Narrative）」。
第2回目を迎える2026年は、宮島が紅葉に色づく「秋」に開催することが決定いたしました。

島そのものが神として信仰される宮島の霊峰・弥山で1200年灯り続ける「消えずの火」は、広島平和記念公園の「平和の灯」の火種でもあります。形を持たず、燃えるものがなければ消える火は、「無常」や「流動性」を孕んだ「変化し続ける存在」の比喩でもあります。MAFINは、このダイナミックな時間軸を捉え直し、アートを介して普遍的な平和の希求や祈りのあり方を再考する試みとして始まりました。
2025年4月26日から5月25日にかけて開催された初回では、大聖院の歴史に呼応するかたちで広島にゆかりの深い3組のアーティストによる作品を提示しました。久保寛子（1987-）は、防風ネットなどの工業素材を用い、農耕や神話を主題とした《ライスフィールド》や《鉄骨のゴッデス》を十一面観世音菩薩が安置された観音堂内に設置しました。Chim↑Pom from Smappa!Group（2005-）は、広島市に届いた千羽鶴をお焚き上げした灰や、千羽鶴に織り込まれたメッセージを読み上げる映像作品によるインスタレーションを、宮島の町や海を見渡せる大広間に展開しました。2020年に急逝した康夏奈（1975-2020）による《Beautiful Limit》は、130枚に及ぶドローイングが繋ぎ合わされ、康自身の山々での極限的な風景体験が部屋をぐるりと包み込むパノラマとなって、厳島御室会館内に再構成されました 。

『風景には、はじまりと終わりがない』と語った康夏奈の視座、宇宙的な観点から見れば、自然の循環、生死のサイクルには、はじまりと終わりがありません。第2回目を迎える2026年もこの視座を継承し、1200年の祈りが重なる宮島という特別な地に、新たな現代アートの実践の場を創出します。国内外から表現者を招き、この地が持つ固有の文化と現代の視点を交差させることで、はじめと終わりの境界線を結び直し、希望へと橋を渡し直すことを目指します。

「MAFIN 2026」開催概要

名称　MAFIN 2026（Miyajima Art Festival in the Narrative 2026）
会期　2026年11月20日（金）ー12月13日（日）
会場　宮島弥山大本山 大聖院
企画　キュレーター：戸塚 愛美（インディペンデント・キュレーター）
　　デザイナー：林 琢真（アートディレクター、グラフィックデザイナー）
　　宮島芸術祭実行委員会委員長：イタイミナコ（美術作家）
主催　宮島芸術祭実行委員会
後援　一般社団法人宮島観光協会
ウェブサイト　https://mafin.jp/

広報・取材・プレスリリースに関するお問い合わせ｜有田泰子／Early Edition　arita@earlypress.info

MAFIN（Miyajima Art Festival in the Narrative）とは

MAFINとは、広島県廿日市市宮島を舞台とした現代アートの展覧会／アートプロジェクトです。1200年の歴史を有する宮島のお寺・大聖院を起点とし、広島の歴史や文化を継ぎ、紡いでいくための表現を生み出していきます。神の島と呼ばれ、長く聖域として敬われている宮島。被爆80年の節目に実践をはじめ、大聖院のダイナミックな時間軸を捉えなおし、アートを介して、普遍的な平和の希求・祈りのあり方を再考していくことを目指します。

企画体制プロフィール

キュレーター：戸塚 愛美（インディペンデント・キュレーター）

公共空間における展示のあり方や観客の設定に関心を寄せ、サイトスペシフィックな展覧会やアートプロジェクトの企画・運営に携わるほか、固有のナラティブを活用した芸術祭や展覧会など、民間企業や行政との協働により社会と芸術をつなげる役割を担う。
主なキュレーション実績に、さいたま国際芸術祭2020「I can speak」旧大宮図書館（2020年、さいたま市）、「髙柳恵里、井戸川射子、髙柳克弘」Kanda & Oliveira（2025年、船橋市）。国際的な活動に「Words are Bellows」W Gallery（2024年、リトアニア首都ヴィリニュス）。NPO法人BARD代表理事。

Photo by Butautas Barauskas

デザイナー：林 琢真（アートディレクター、グラフィックデザイナー）

中島英樹に師事。林琢真デザイン事務所代表。美術や建築の展覧会におけるグラフィックのアートディレクションを主軸に書籍・広告・ファッション・音楽関連のディレクション、ブランディングやサイン計画など多岐にわたって活動。2017年よりTOTOギャラリー・間での建築展のメインビジュアルのデザインを担当。2025年に株式会社anemosを共同創業。主な個展に「FIGURATIVE AND ABSTRACT」（2020年、アムステルダム／東京）。主な受賞に、ニューヨークADC、東京ADC、造本コンクール、全国カタログ・ポスター展、交通広告グランプリなど。

Photo: Yuna Yagi （atelier now/here)

宮島芸術祭実行委員会委員長：イタイミナコ（美術作家）

地域文化を掘り起こし、街が持つ潜在的な可能性や課題に向き合いながら、彫刻やパフォーマンスを通して表現活動を行う。広島市営基町高層アパートの自治会長として芸術を介した地域づくりに取り組むほか、同地区のオルタナティブスペース「コア」の理事を務める。また、広島市立大学に在籍し、芸術を通じた昇華や供養のあり方について研究している。
主な展覧会に「Hiroshima MoCA FIVE 25/26」広島市現代美術館、「KIT Miyauchi 00」アートギャラリーミヤウチ（2024年、広島）、「基いの町2024」オルタナティブスペース・コアほか（広島）など。

お問い合わせ先

宮島芸術祭実行委員会事務局　contact@mafin.jp